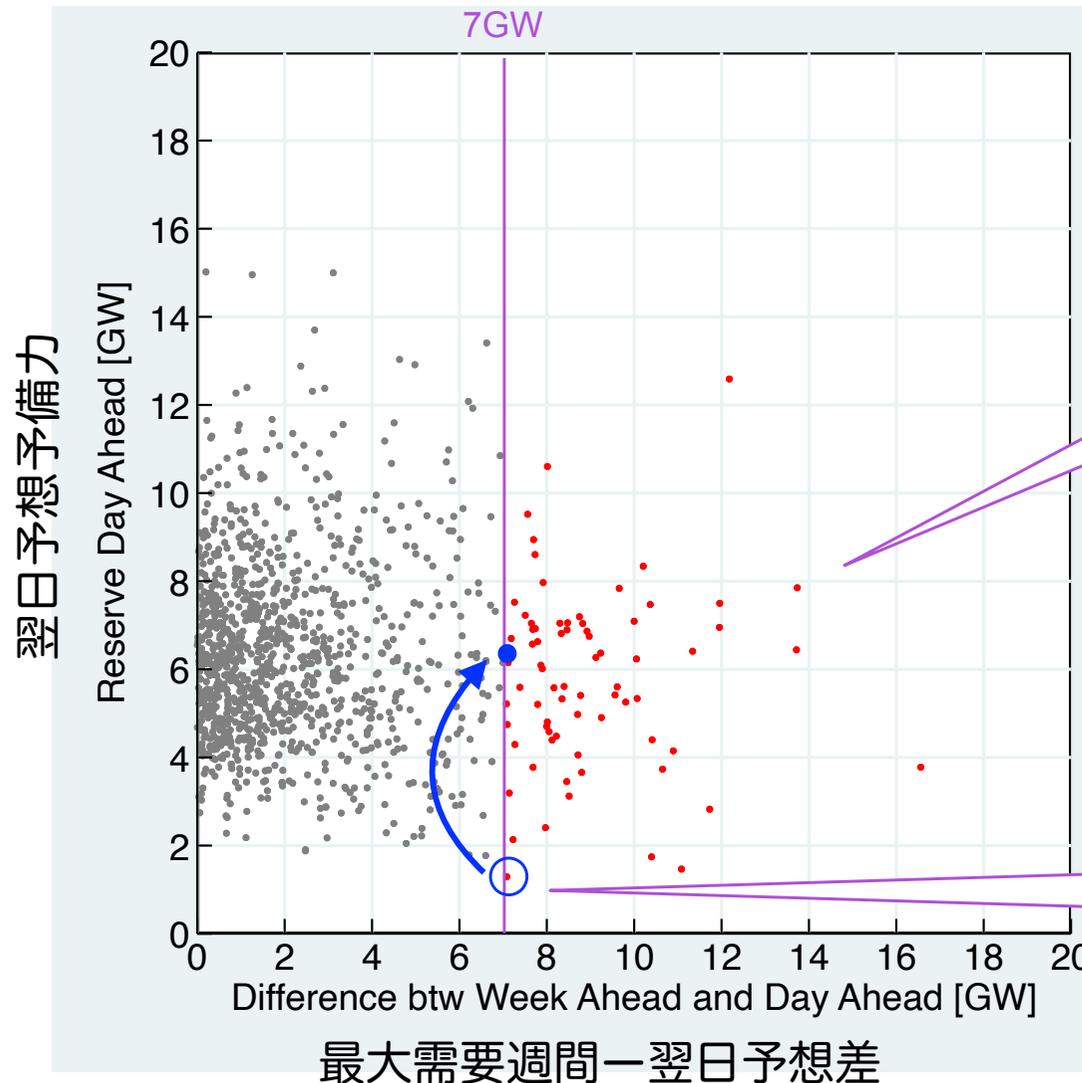




# 最大需要週間＝翌日予想差と 翌日予想予備力の相関



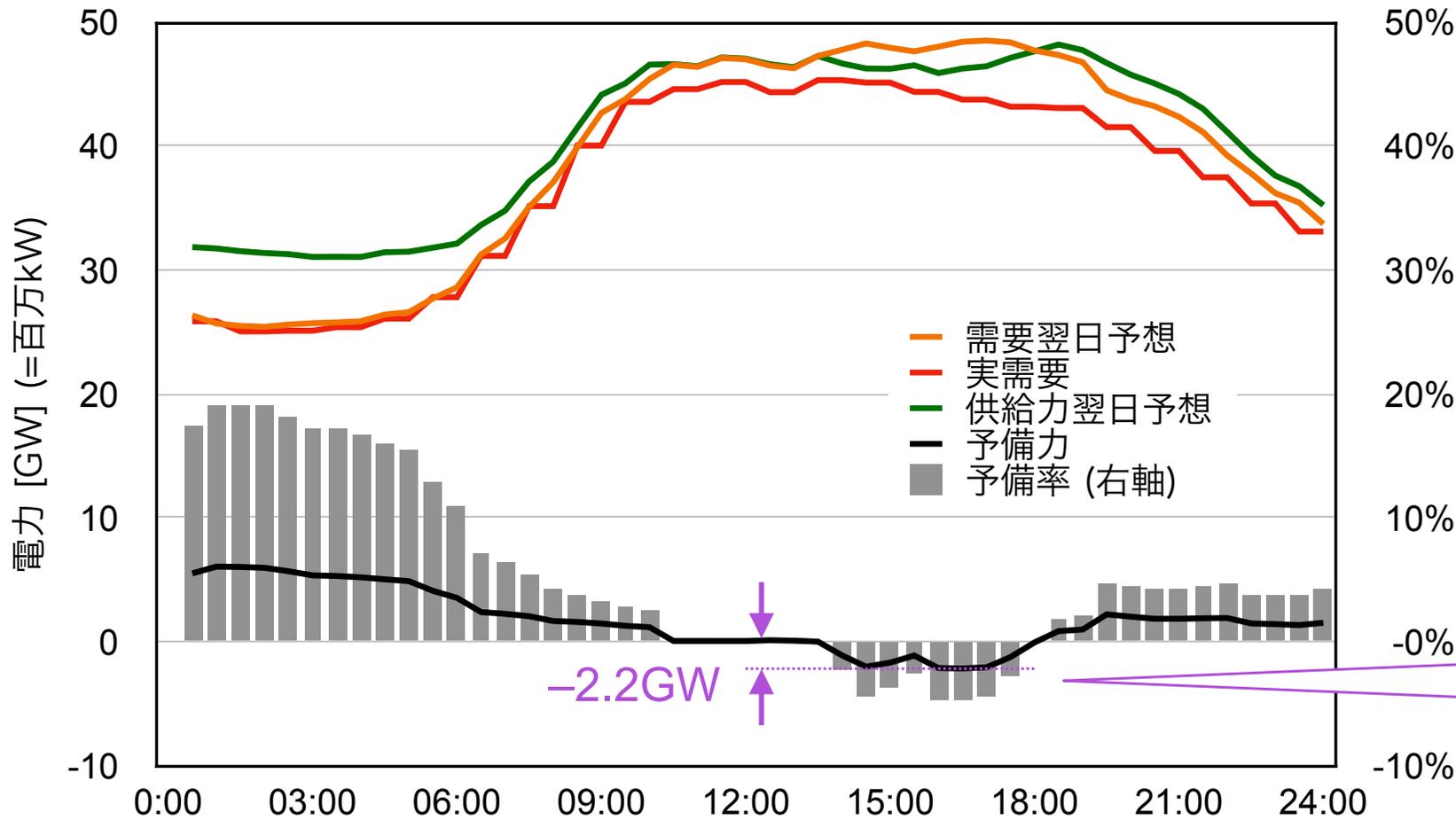
最大需要翌日予想が  
翌週予想よりも**7GW**  
以上増えたケースは  
過去6年間で48回  
(特に夏季)

半数以上は**5GW**  
程度の容量脱落でも  
需給逼迫になら  
なかった可能性

地震による電源脱落  
**2.5GW**+連系線運用  
容量低下**2.3GW**が  
なければ需給逼迫は  
なかった可能性



# 3月22日の需要・供給力 (東京エリア, 30分毎, 翌日予想)



予備率がマイナスの時間帯も…

地震による電源脱落2.5GW+連系線運用容量低下2.3GWがなければ需給逼迫はなかった可能性



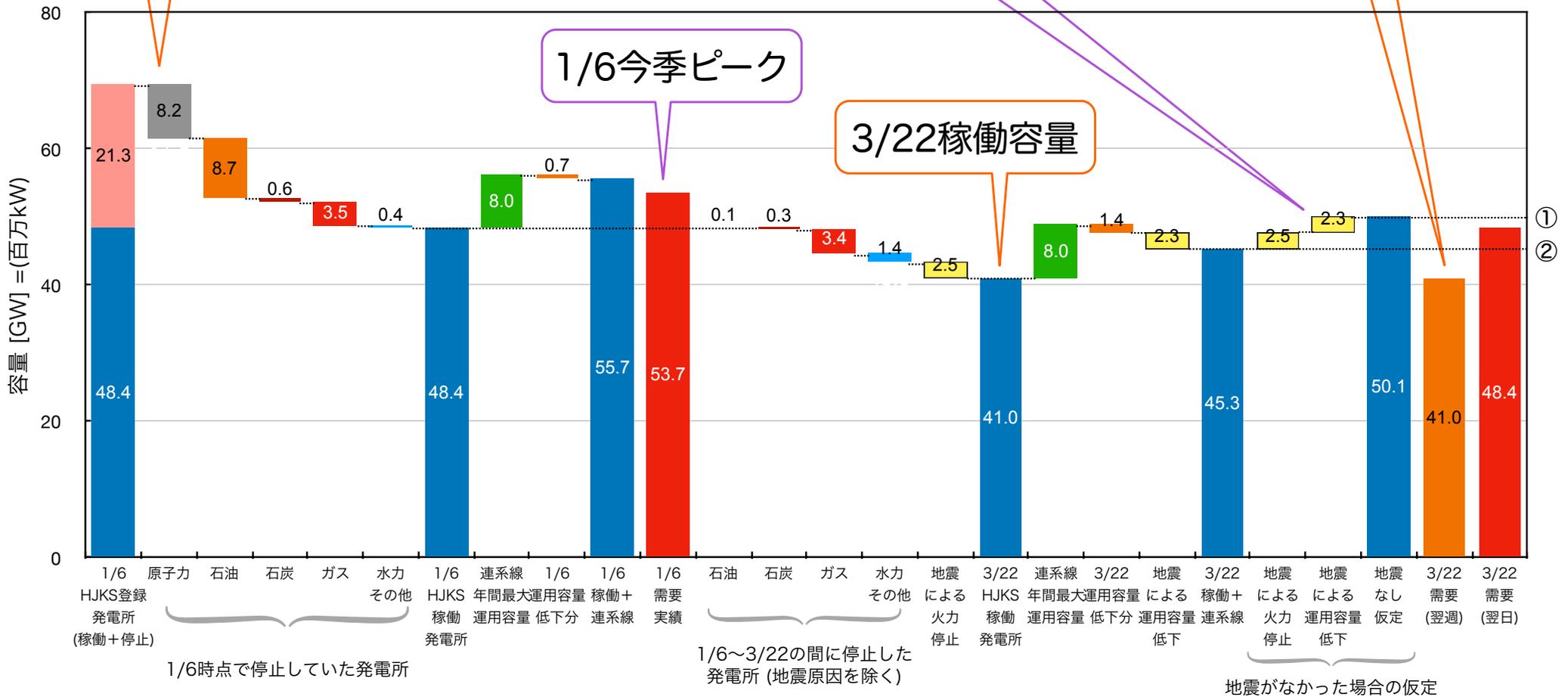
# 発電所稼働状況と地震の影響



原発は今回の事象には全く関係ない

①地震による電源脱落2.5GW+連系線運用容量低下2.3GWがなければ突然の寒波でも需要逼迫は起こらなかった可能性

②突然の寒波がなければ地震後も需要逼迫はなかった可能性



(データソース) 日本卸電力取引所(JEPX): 発電情報公開システムHJKS > 停止情報, 稼働・停止状況  
電力広域的運営推進機関: 広域機関システム > 情報ダウンロード > 連系線 > 連系線潮流実績  
電力広域的運営推進機関: 情報ダウンロード > エリア・広域ブロック情報 > 需要予想・ピーク時供給力



## ここまでのまとめ

仮にそれぞれ10年に1回の発生確率だと仮定すると、同時発生の確率は  
100年に1回

27



- 2022年3月22日に発生した東京エリアにおける需給逼迫の原因は、
  - 3月16日に発生した地震により、**2.5GW** (=250万kW)分の火力機が停止・出力低下し、**2.3GW** (=230万kW)分の連系線運用容量が低下したこと
  - 突然の寒波のため、最大需要予想が一週間前の予想より前日時点での予想が**7GW**(=700万kW)分増加したことの**2つの事象が同時発生**したことに起因する。
- 地震と寒波のどちらか一方だけが発生した場合は、需給逼迫に至らなかった可能性が高い。